

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立宍道中学校)

平成31年2月15日

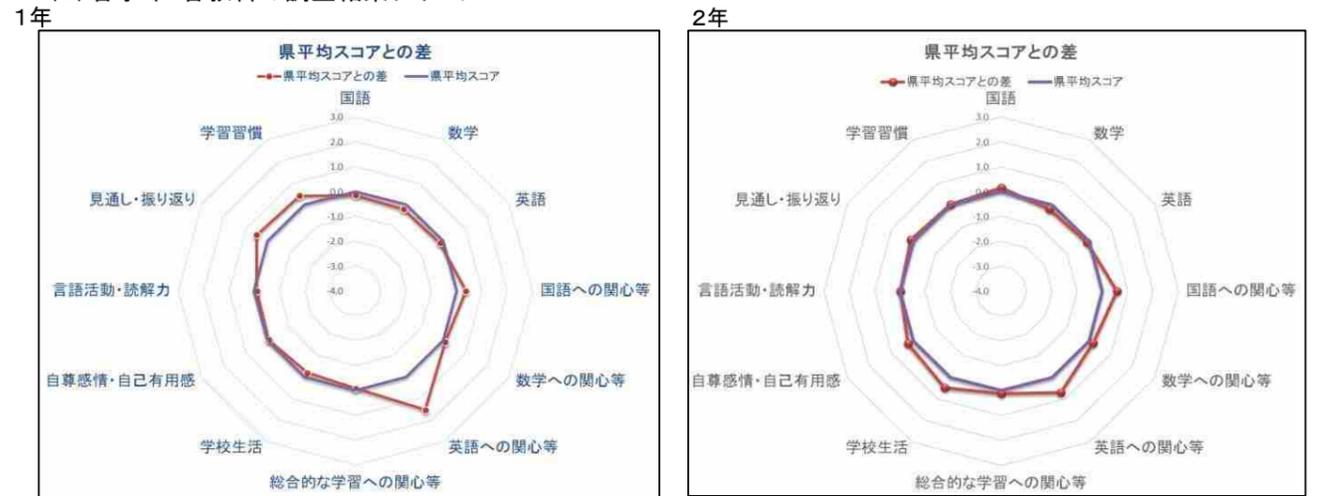
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○文学的文章の読み取りについて、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み取る設問の正答率が高い。 ●語彙が少なく、漢字の読み書きの力が定着していない。 ●文章の構成を考えたり、文章の展開について自分の考えをまとめて書いたりする力が不足している。	・辞書を引いて意味を調べる習慣をつけ、新しく身につけた語彙を日常生活で使用する機会を増やす。 ・自分の考えをまとめて発表したり、短い文章にまとめる学習を繰り返し取り入れる。 ・互いの書いた文章を読み合い、学び合う学習を多く行う。
	数学	○関数の領域でグラフを読み取ったり、関係を式で表したりすることができる。 ●数量や図形などについての知識が乏しく、図形の面積や体積を求めることに苦手意識を持っている。 ●資料を読み取り、その特性や傾向を考察する力が不足している。	・授業の中で、数学的な言葉を正しく使って説明するように指導する。 ・図形概念を身に着けるために、具体物を使って操作する活動を取り入れる。
	英語	○基本的な単語や文型の意味を理解したり、運用したりする力が定着している。 ●長文を聞き取る力が不十分である。 ●表現に関する分野において十分な力がついていない。特に空所適文や、自己表現についての力が不足している。	・授業の中で、自己表現を伴う「書く」表現活動の機会を更に増やす。 ・まとまった英文を聞き取る活動を取り入れる。(ALTやCDなどによるリスニングの活動) ・段階を踏んで徐々に速読活動を取り入れる。
2年	国語	○国語への関心が高く、授業の理解度も高い。 ○書くことへの関心が高く、能力も身につくにつがある。 ●文法事項の理解の定着が悪い。 ●文章中のものの方、考え方を的確にとらえ文章で解答する設問の正答率が低い。	・より分かりやすい文法の指導を心がける。 ・自分の考えをまとめて発表したり、短い文章にまとめる学習を意図的に設定する。
	数学	○7割以上の生徒が解き方がわからない問題でもあきらめずにいろいろな方法を考えると答えている。 ●関数の領域で、グラフから式を求めたり、2直線の交点の座標を求める問題の正答率が低い。 ●全体的に学習内容の定着が不十分である。	・既習事項の定着を図るために、練習問題を解く機会を増やす。 ・式、表、グラフの関係について考える活動を取り入れる。 ・やや難易度の高い問題に挑戦したり、自分の考えを発表したりする活動を取り入れる。
	英語	○英語について関心が高く、肯定的にとらえている生徒が多い。 ○対話の内容を読み取り、選択肢の中から正しい語順や単語を選ぶことができる割合が高い。 ●英作文の正答率が低く、また無回答率が高い。 ●長文を読み取ることや聞き取る力が不十分である。	・基本的な文構造を定着させるために、書く活動を授業で増やす。 ・長い文の要点を聞き取る活動を取り入れる。 ・まとまりのある長文を読む活動を取り入れ、スキミングやスキミングの力を養う。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○学習のめあてやねらいが提示されており、生徒は意識し、達成しようとする意欲をもちながら授業に取り組んでいる。 ○英語への興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいる。 ●授業のねらいに対する、終末のまとめについて、十分行われていないと思われる。	・生徒が興味関心をもって学習に取り組み、授業の内容が定着するよう、よりわかりやすいめあてを設定したり、授業の流れを伝えたりして授業を行うよう努める。 ・終末でのまとめやふり返りを充実させることで、学力の定着を図るようにする。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習については、学習時間が少ないが定着しつつある。主に宿題や自学による復習に力を入れて取り組んでいる。 ●復習に時間を多く充てている反面、予習的な家庭学習が少ない。	・予習の仕方について再度確認し、復習とバランスがとれたより望ましい家庭学習について話し合い、実践に導く。 ・復習の成果に対する小テストを計画的に実施し、達成感・成就感のある家庭学習に取り組むようにする。 ・個別指導の充実を図る。
2年	授業改善に関わる事項	○ほぼ全員の生徒が、授業で自分の考えを発表する機会があると回答している。 ●将来の夢や目標を持っている生徒の割合が低い。 ●数学への関心が他教科と比べて低い。	・総合的な学習の時間や学級活動の中で、自分の将来について考える機会を設ける。 ・授業の振り返りを生徒自身が行えるような工夫をする。 ・学習規律の確立を図る。
	家庭学習に関わる事項	○県平均と比べて携帯電話の使用時間が少ない。 ●家で授業の予習、復習をしている生徒の割合が県平均と比べて低い。 ●家で自分の学習計画を立てている生徒の割合が約半数にとどまっている。	・宿題を出した時のチェックを丁寧に行う。 ・復習に力を入れている生徒の正答率が高いことから、家庭で授業の復習をするような習慣づくりをする。 ・家庭学習に適した学習事項と授業で理解すべき学習事項を考えさせる機会をつくる。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	64	34	61
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	68	36	55
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
1年生 74 人

受検者数
2年生 65 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

